

表3 関東大震災の経緯とプールの逃避行の時系列, 9月3日から9日まで

	推定時刻・天候, 地震・火災の状況	場所・船・建物, 道路・壁の状況	O. M. プールの行動, 他の人の動き
9月3日	3日(月)朝早く	オーストラリア号の上級船員からどこに行きたいかを決めて、指定された舷門の場所に行くように指示された。	日本国中が地震の被害を受け、神戸も極度の困窮状態にあると考え、外国人にとって日本での生活は困難であると思っていた。プールは妻と子供をシアトルに送り先の見通しがつくまで待たせることにした。プールは神戸まで彼らを送っていき、神戸に残るつもりだった。
		船上の避難民はすし詰め状態で正甲板で並んで待つように指示された。	キャンベル夫人が重苦しい熱気のため失神した。プールや家族は遊歩甲板で彼女を介抱するため待つことにした。
		プレジデント・ジェファソン号が神戸から到着し、新しい情報をもたらした。	静岡にいたプールの父は被害を受けず、元気であるとの情報を得た。プールたち家族は全員元気であることを父に伝言して貰った。
		軽井沢に避暑していた人は被害はなく、激甚な被害は東京から50マイル(80km)の範囲と知らされた。	軽井沢にいたプールの妹と家族は無事であると判断された。プールはカナダ号で神戸に行き、家族は上海の義兄宅に行かせることにした。
		3日昼頃、カナダ号は他の避難民の乗船を待たず、すぐには出航しなかった。	プールと家族は小舟でカナダ号に移ることができ、神戸に向かった。献身的な子守のミネも一緒に神戸に向かった。
		カナダ号の乗客から避難民に対して、衣類などが与えられた。負傷者の手当てや手術も行われた。	プールたち家族は、特等室を与えられ、アメリカからの乗客からトランク内の衣類を与えられ、着替えることができた。
9月4日	ジェファソン号とドンゴラ号は午後神戸に向かって出港した。	神戸に向かう海上では乗客に無電で伝言することが許され、地震被害のニュースが世界に広がった。	ドットウェル商会の職員の安否が分かり、多くの職員は神戸に向かった。上海・香港・アメリカ・欧州に向かう者もいた。
		箱根のフジヤホテルに宿泊していた外国人の多くは、負傷していなかった。	家庭教師のローリットセン嬢は箱根にいたが、無事で徒歩と自転車で横浜に戻り、夕方カナダ号に乗船できた。
	4日(火)朝早くカナダ号は神戸に向けて出港した。	午前中アメリカからの乗客は食堂で会合を開き、救援処置を話し合い、寄付金を集めた。	会合でアメリカ大使館の職員が東京の被災状況を説明した。プールは横浜の被災状況などを詳しく説明した。
	4日夕方	日没時に洋上で、幼女ヘレンが死んだので、上級船員によって簡潔な葬儀が行われた。	プールは下の会合に参加していたため、名簿に載らなかった。満洲の奉天にいたプールの兄は家族のみが助かったものと判断した。
9月5日	4日夜半	数時間後に救援船が準備され、医療品・食料品・飲料水を積んで、夜半に出航し、5日明方横浜に着いた。	ドットウェル商会の神戸事務所の新入社員ユウイングは救援船に乗り、横浜に向かった。
	5日(水)夜明け直後にカナダ号は神戸に着いた。	神戸は避難者たちでごった返しており、各種の委員会は救援物資を放出し、寄付者名簿が公開された。	神戸支店の支配人はカナダ号が到着すると、プールを北野町三本松の自宅に連れていった。
9月6日	5日夜	夜、カナダ号は日本を一時的または恒久的に去る数百人の避難者を乗せ、上海に向かった。	妻ドロシーと子供たちは上海に行くため船に残った。
	6日(木)	別荘地の軽井沢は多くの外国人が滞在していた。死傷者は少なかったが、食料が入手できず困っていた。	ジョージ・メイトランドから軽井沢にいるエノリアを救助するため、上海から日本に向かうという電報を受け取った。
週末	8日・9日(週末)	箱根・宮の下の避難者は沼津から列車で神戸に着いたが、プールの友人が多かった。	兄パードは満洲の奉天から5日に汽車に飛び乗り、9日(土)の神戸についていたが、プールが生きていることを知り、喜んで奉天に帰った。
		オーストラリア号は他の大型船の錨網から潜水夫によって解放され、航行可能となった。8日の深夜に600人の外国人を乗せ出航し、10日に神戸に着いた。	神戸に着いたオーストラリア号には義父キャンベルが乗っていた。プールは神戸にいるドットウェル商会の職員らを集め、「三本松」会食グループを主催した。